

グラデーション 色鉛筆で描く「瞳」

令和5年2月7日(水) 6校時 1年1組23名(男子14名 女子10名)

1 単元について

- 本単元について中学校学習指導要領解説美術「みつめ、感じ取り、描く」では〔思考力、判断力、表現力等〕「A 表現・ア」および〔知識・技能〕「A 技能・ア」に次のように記されている。

A 表現・(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

技能・(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(1) 単元観

本単元は、身近なものを見つめ、感じ取った特徴をどのようにあらわしたいか考えて、材料用具を工夫して描くことを目標としている。瞳をクローズアップして描くことで、「グラデーション」の技法を用いて立体的に表現し、色鉛筆のもつ色彩の重ねやすさを利用して、色彩によって、青系であれば、静かさ、赤系であれば元気さ、などの雰囲気や印象の表現ができる題材である。また、ICTを活用して瞳の撮影を行い資料とすることで、拡大したり、比較したりして、形や色の変化をとらえやすくし、対象を「みつめ、感じ取り、描くこと」ができる題材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、おおむね意欲的に美術の学習に取り組んでいるが、学習内容の定着には学級内で大きな個人差が見られる。基本の知識・技能として、デッサンを学習し、白黒のグラデーションによる立体表現は身についたが、色によるグラデーションの理解は十分とは言えない。本学級の生徒に事前に行ったアンケート(令和5年1月16日実施、16名回答、4人欠席)では、「グラデーションの技法で、選ぶ色がすべて理解できる。」の問いに対する解答のうち「すべて理解できる」の回答の割合は18.6%、「色によってはできる」の回答の割合は74.4%、「できない」の回答の割合は7%であった。この結果から、立体的な表現や印象を表す為に重要な「グラデーション」の表現技法を、自らの作品に効果的に使用できる生徒は2割程度で、基本の色であれば使用できる生徒は7割、1割の生徒は、グラデーションの表現において、色を選択することができないと考えられる。ICTを活用した写真撮影や編集作業に積極的に参加しているため、画像を活用し使用することができる。

(3) 指導観

指導に当たっては、「色のグラデーションを使用して自分のあらわしたい雰囲気を表現し、立体的に描く。」という単元を貫く問いを設定し、見たものの形を捉えてそのまま描くだけでなく、色彩の組み合わせにより、イメージや雰囲気なども立体的に表現できる力を養いたい。形を描く場合に、1色の表現のみではなく、色鉛筆を使用することで、複数の色を重ねて、混ぜながら、色彩の明暗や濃淡であらわしたい雰囲気を表現することで、他の題材においても活用できるような論理的表現力を養いたい。

クロームブックを用いて自身の瞳を撮影させ、題材として客観的に観察し、彩色について構想させたい。また、他の人の作品を参考にしながら多様な配色について思考し、グラデーションの色の組み合わせのバリエーションを広げることで、今後のデザインの作品においても、背景に組み合わせる色と、文字や画像の配色の効果などに生かせるよう、思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。

(4) 単元の目標

- グラデーションの技法を理解し、色彩による立体表現を工夫して、立体的にあらわすことができる。
【ア. 知識・技能】
- 色彩による印象の表現を目標にし、グラデーションの技法を使用して、自分の表現方法を工夫して、構想し表すことができる。
【イ. 思考力・判断力・表現力】
- 自分の考えやイメージを明確に伝えるためにICTを活用して構想し、あらわしたい雰囲気に応じて色を組み合わせ、グラデーションの技法を用いて積極的に伝えようとしている。
【ウ. 主体的に学習に取り組む態度】

(5) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校として、次の資質・能力の育成に重点を置いている。

- ①言語・数量・情報 ②問題解決力 ③情報活用力 ④コミュニケーション能力 ⑤主体性・協調性

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の1点に重点を置くものとする。

③ 情報活用力

制作の材料を用意するにあたり、「瞳」を描くために、客観的に観察しやすくするために、クロームブックでの写真撮影を行う。映像材料を利用することで、グラデーションの表現に注目させ、色彩表現を構想する場合、どのような色の組み合わせで描くか試行錯誤したり、現実の色合いと比較したりして、自身の作品を表現しやすくすることを目的としている。マイドライブへのアップロードやスライドへの貼り付けなどの機能を理解させ、トリミングや拡大などの機能を活用させながら情報活用力を伸ばしたい。

(6) 本質的な問い

美術表現には、どのような表現方法があるだろう。

(7) 単元を貫く問い

自分があらわしたい雰囲気や立体表現をするためには、どのように技法を活用すれば良いだろう。

(8) 個別の問い

- ・立体感を表現する技法は何だろう。
- ・見たものを立体的に描くためには、グラデーションの技法を使ってどのように表すのだろう。
- ・色のグラデーションは、あらわしたい雰囲気の表現と、どのように関連しているのだろう。

2 単元の評価規準

観点	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①立体を白黒の濃淡や色の明度のグラデーションであらわすことを理解している。 ②立体を白黒の濃淡や色の明度のグラデーションの知識を生かし、工夫して描き制作している。	①写真や映像を編集し、それを基に自分の考えやイメージが明確になるように、表現したい雰囲気に合わせて、色の組み合わせを考えている。 ②写真や映像を編集し、それを基に自分の考えやイメージが明確になるように、表現したい雰囲気に合わせて、色を選択し、グラデーションで立体的に描き表現している。	①自分の考えやイメージを明確に伝えるために構想し、あらわしたい雰囲気に応じて色を組み合わせ、グラデーションの技法を用いて、積極的に伝えようとしている。 ②自分の制作の材料をICTを活用して、構図を工夫して具体的に描こうとしている。

3 指導計画（3時間）

次 時	学習活動	指導上の留意点（○） 予想される生徒の反応（・）	評価規準 【観点】(評価方法)
一 1	【単元を貫く課題】「色のグラデーションを使用して自分のあらわしたい雰囲気を表現し、立体的に描こう。」		
	1. 鑑賞活動をする。 2. 本時の学習課題を確認する。	○1学期に制作した、鉛筆の濃淡による「瞳」の作品と色鉛筆を使用してグラデーションの技法で描いた「瞳」を比較し鑑賞させる。 色のグラデーションを使用した作品の例から、色のグラデーションで立体表現をする技術を練習させる。	
	めあて：色のグラデーションで立体表現しよう。		
	3. グラデーションの練習をする。	指定された4色で一斉練習し。「瞳」を彩色し立体表現させる。 ○ワークシートのマスに明暗の段階を最初に指定しぬらせて色を確認できるようにしておく。 ・瞳孔を黒にして周りをグラデーションにするにはこげ茶の次に何色にすればいいのかわからない。 ・鉛筆だとわかるけど色の濃淡が難しい。	【ア①②】 ワークシート
	4. グラデーションの練習をする。	○緑系の4色を使用させ自分でグラデーションの配色を選択させ「瞳」を彩色し立体表現させる。 ・最も暗い色が深緑で最も明るい色を黄色にしたら、間の2色は緑だと思う。 ・深緑からエメラルドグリーンに変化するなら水色とか青になっていくがそれはグラデーションなのかな？	
	5. まとめを行う。	練習1・2から分かったグラデーションのポイントを整理する。	
	6. 撮影を行う。 7. 振り返りを行う。	○クロームブックのカメラで自分の「瞳」を撮影させマイドライブにファイルをアップロードさせる。全員に手順を示し一斉に行う。あらかじめ見本を見せる。 ○撮影した自分の「瞳」をグラデーションの技法で表現することを予告し、構想が具体化できるように次時の活動を予定しながら、振り返りシートに記入させる。	【ウ①】 振り返りシート

【単元を貫く課題】色のグラデーションを使用して表したい雰囲気を立て的に表現しよう。

- 1. 前時の確認をする。
- 2. 本時の学習課題の確認

○グラデーションのポイントを整理する
例題をいくつか示す。
色のグラデーションの例から、「静かな感じ」「あたたかな感じ」「さわやかな感じ」などの感情にもたらす効果を確認する。色のグラデーションで立体表現をする事で、表現したい雰囲気を表わせるように色決めを指示する。

めあて：色のグラデーションで雰囲気のある「瞳」をあらわそう。

- 3. グラデーションの色を選ぶ。
- 4. グラデーションの色見本のマスを塗る。
- 5. クロームブックのスライドで自分の「瞳」を参照する。
- 6 「瞳」のスケッチを行う。

色を選ぶポイントを指示する。
①最も濃い色を決める
②同系色の濃淡か色相の明暗の変化かを決める
③最も淡い色を決めるを指示する。
例 赤→朱色→?→レモン色
? = オレンジ

- ・黒から青や赤に変化してもいいのか?
- ・赤から青に変化するには
- ・写真を撮って見ないと解らない。
- ・何を書くか思い浮かばない。

○色見本のマスを塗り自分のグラデーションの色の変化を確認する。
6 ○グーグルスライドを立ち上げ撮影した「瞳」の写真を参照する。
あらかじめ見本を見せる。

- ・画像の表示がうまくできない。
- ・拡大は最初からやっておいた方がいいのか?

○スケッチは鉛筆か、シャープペンシルを使用させる。
5分程度で素早くりんかくを描く。
瞳孔は選んだ最も濃い色でぬらせる。
・瞳孔を先に黒でぬっていいのか悩む。

【イ①】
ワークシート

【イ②】
ワークシート

振り返り 自分の構想した雰囲気で瞳を描くために、どのように色を組み合わせるグラデーションで表現出来たか振り返ろう。

- 7 振り返りを行う。

○選んだグラデーションで、あらわしたい雰囲気が出せているか、振り返らせる。
色を選んだ理由を振り返りシートに記入させる。

[イ ①] [イ ②]

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手だて (C)
<p>色のグラデーションで立体的に「瞳」を表わすため、次の3つのポイントを押さえて(① 最も濃い色を決める② 同系色の濃淡か色相の明暗かを決める③ 最も淡い色を決める)表現している。なおかつ表したいイメージや雰囲気に応じた色を意図をもって選択し、他の作品の良さを参考に改善し、より良い表現を工夫している。</p>	<p>自分の「瞳」をグラデーションで立体的に表すため、3つのポイントを理解し、それらのポイントをおさえた色を選択できている。</p>	<p>色のグラデーションで「瞳」をあらわすため次の3つのポイント(① 最も濃い色を決める② 同系色の濃淡か色相の明暗かを決める③ 最も淡い色を決める)を押さえておらず、あらわしたいイメージや雰囲気に応じた色を選択できない。</p>
<p>例1 色のグラデーションで立体的に「瞳」を表わすため、次の3つのポイントを押さえて(① 最も濃い色を決める② 同系色の濃淡か色相の明暗かを決める③ 最も淡い色を決める)色を選択している。尚且つ表したいイメージや雰囲気に応じた色を意図をもって組み合わせ、配色の効果を生かして彩色している。</p>	<p>例1 色のグラデーションで立体的に「瞳」を表わすため、次の3つのポイントを押さえて(① 最も濃い色を決める② 同系色の濃淡か色相の明暗かを決める③ 最も淡い色を決める)色を選択しているが、表したいイメージや雰囲気に応じた色を意図をもって組み合わせ彩色していない。</p>	<p>例1 グラデーションに使用したい色を決めることができず、グラデーションの技法を使用できない。 ・グラデーションの表現に使用する色の選び方を、事前に紹介する。 ・ワークシートにグラデーションの表を作り、色を選択しやすくする。 ・クラスの、他の人の選択したグラデーションの色を見本として紹介し、自分の表現したい構想を色で伝えるためには、何色を選択し、どのようにグラデーションで変化させて立体表現するか思考させる。</p>

(3) 板書計画

めあて 色のグラデーションで雰囲気のある「瞳」をあらわそう。

授業の流れ

色の見本例

色の見本例

色の見本例

●グラデーションをつくる3つのポイント

① 最も濃い色を決める

② 同系色の濃淡か色相の明暗かを決める

③ 最も淡い色を決める

塗り方

①最も濃い色から淡い色に向かってぬる

②色と色の境目を重ねて滑らかに変化させる

振り返り 自分の構想した雰囲気での瞳を描くために、どのように色を組み合わせるかをグラデーションで表現出来たか振り返ろう。

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 (評価方法) 配慮を要する生徒への支援 (◆)
<p>1. 前時の確認をする。</p> <p>2. 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○グラデーションのポイントを整理する例題をいくつか示す。</p> <p>色のグラデーションの例から、「静かな感じ」「あたたかな感じ」「さわやかな感じ」などの感情にもたらす効果を確認させる。色のグラデーションで立体表現をする事で、表現したい雰囲気をあらわせるように色決めを指示する。</p>	<p>◆簡単な色見本でクイズ形式にし、一目で解るようにする。</p> <p>◆色の組み合わせにより、グラデーションで表現できる印象の種類を確認させる。</p>
<p>めあて：色のグラデーションで雰囲気のある「瞳」を表わそう。</p>		
<p>3. グラデーションの色を選ぶ。</p> <p>4. グラデーションの色見本のマスを塗る。</p> <p>5. クロームブックのスラドで自分の「瞳」を参照する。</p> <p>6. 「瞳」のスケッチを行う。</p>	<p>グラデーションの色を作るための3つのポイントを指示する。</p> <p>①最も濃い色を決める</p> <p>②同系色の濃淡か色相の明暗の変化かを決める</p> <p>③最も淡い色を決める。</p> <p>例 赤→朱色→?→レモン色 ? = オレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒から青や赤に変化してもいいのか? ・赤から青に変化するにはどう変化するのがかな? ・写真を撮って見ないと解らない。 ・何を書くか思い浮かばない。 <p>○色見本のマスを塗り自分のグラデーションの色の変化を確認させる。</p> <p>○グーグルスライドを立ち上げ撮影した「瞳」の写真を参照させる。</p> <p>あらかじめ見本を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の挿入がうまくできない。 ・拡大は最初からやっておいた方がいいのかな? <p>○スケッチは鉛筆かシャープペンでさせる。</p> <p>5分程度で素早くりんかくを描く。</p> <p>○グラデーションの表現に選択した色で暗く濃い色から段階をおって明るい淡い色へと色調を変化させる。</p> <p>塗り方</p> <p>①最も濃い色から淡い色に向かってぬる</p> <p>②色と色の境目を重ねて滑らかに変化させる</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>瀬戸田シン キングタイム</p> </div> <p>【イ①】(ワークシート)</p> <p>◆グラデーションの色を作るための3つのポイントを再確認させる。</p> <p>◆グラデーションの色が解らない場合はGoogle検索したり、スライドの機能を利用して試しても良いと指示する。</p> <p>【イ②】 ワークシート</p> <p>◆塗り方を板書で確認させる為に一旦全員板書を読ませる。</p> <p>◆すぐに塗り始められないが場合にも投影機で他の人が塗っている様子を映し確認できるようにする。</p>

<p>7.まとめを行う。</p>	<p>○グラデーションの3つのポイントと、塗りがたの2つのポイントを確認させ、どのような雰囲気表現した作品かを意識させまとめさせる。</p>	
<p>7. 振り返り</p>	<p>○自分の作品の工夫点や表現したい雰囲気が出せているか振り返る。 次時の活動を予定しながら、振り返りシートに記入させる。</p>	

※□囲みで示した活動が、本時におけるシンキングタイムである。